a local story 岡 of 崎 まちものがたり

2016.7.1 100th ANNIVERSARY OKAZAKI 岡崎市創施行100周年

23

緑と川、ホタルが飛び交うまち

秦梨学区

HADANASHI

地域と学校を結ぶ活動を未来へ

秦梨小学校

「秦梨 OC(オピニオンサークル)委員会－秦梨のよさを発表しよう」

2015年12月の委員会では、5・6年生が学区の方へ向けて学習発表を行いました。5年生は「秦梨の米作りのよさ」を田の先生に教わり、自分たちの思いを伝えました。6年生はこれまでの生活を振り返り、秦梨らしい活動を壁画に表し、それをもとに成果を発表しました。

河合中学校

「2016 河合ホタルサミット」

河合学区の小学校代表、美合小や額田地区の代表、岡崎市内のホタル保存会、市の関係者が参加。これからの河川環境の改善や自然と共生するための方法、生物保全について活発な意見交換がなされ、乙川上流地域に暮らす人たちの自然保護の意識を高めることができました。

a local story 岡 of 崎 まちものがたり

編集後記

編集後記に代えて　総代会長　川澄善久

明治24年、乙川沿いに今の県道35号ができる前は、岡崎の町に出るのに才栗か岩戸から道根往還に出て、東公園から中町にいたる道を歩いた。やすらぎ公園の中には「道根往還」の石碑がある。また道根往還沿いに高隆寺があるが、昔はずいぶん立派なお寺であったそうだ。明治33年には秦梨尋常小学校ができて、現在の生平学区である生平町・茅原沢町・蓬生町・古部町・切越町の子どもたちは山道を歩いて通学した。キョウセイ交通大学の近くには聖洞寺を中心とした黍生(きびゅう)の里があったが、昭和11年に同寺が才栗に移転して無住の里となった。平成28年2月13日に新東名高速道路が開通した。秦梨学区内に3か所のトンネルと2か所の橋ができ、牧平町に岡崎東インターチェンジができた。少子高齢化に悩むこの地域にどのような変化が起こるのか、大いに注目し、期待したいと思う。

〔作成委員会〕　川澄善久/本田長吉/鈴木宣行/井戸田登/宇都宮森和/太田一弘/杉原恵美子/岡本弘/粟生勇嗣/鈴木清美/中村龍明/蒲野泉/日下部新八/大久保恵市

〔参考資料〕　ふるさと探訪3　河合の里の自然と名所・旧跡/いぼあらいの始まり

〔表紙写真〕　乙川での釣りとバーベキューを楽しむ秦梨小の親子アウトドア大会

岡崎市制100周年記念事業

岡崎まちものがたり　23 秦梨学区まちものがたり　発行　2017年1月

秦梨学区のなりたち

一八七三年■明治6　三省学校開校（場所は現在の秦梨学区市民ホーム）

一八七六年■明治9　三省学校が才栗の神社に移転し、額田郡才熊学校と改称

一八七八年■明治11　才熊村と栗木村が合併して才栗村となり、友久村は秦梨村に合併される。才熊学校は才栗学校と改称

一八八三年■明治16　岩戸村に校舎ができ、才栗学校が額田郡小学岩戸学校に合併

一八八九年■明治22　市町村制発布により才栗・須淵・岩戸・生平・芽原沢・逢生・古部・切越・秦梨の9村が合併して河合村となる

一八九一年■明治24　乙川沿いに県道35号岡崎設楽線が開通

一八九二年■明治25　河合村立岩戸尋常小学校と改称

一八九四年■明治27　荒川同楽（鼎）先生（→特集）が秦梨に診療所を開く

一九〇〇年■明治33　岩戸尋常小学校校舎が現在地に移り、秦梨尋常小学校と改称

一九〇五年■明治38　高等科が生平から秦梨に移り、秦梨尋常高等小学校と改称

一九〇六年■明治39　町村合併により額田郡秦梨尋常高等小学校と改称

一九一五年■大正4　乙川電力株式会社が操業を開始。河合村に電灯がともる…1

一九三六年■昭和11　聖洞寺が黍生から才栗に移転する

一九四一年■昭和16　秦梨尋常高等小学校が秦梨国民学校と改称

一九四七年■昭和22　秦梨国民学校が額田郡河合村立秦梨小学校と改称

一九五〇年■昭和25　小学校校舎で河合中学校開校

河合中学校が新築移転する

一九五五年■昭和30　額田郡河合村が岡崎市に合併。岡崎市立秦梨小学校と改称

河合中学校が火事で焼失。同年12月新築

一九五七年■昭和32　荒川同楽先生、豊橋で逝去（享年95）

一九六三年■昭和38　秦梨小学校北校舎改築。廃材を福正寺に運び、翌年、秦梨保育園が開園

一九六六年■昭和41　河合中学校がゲンジボタルの人工増殖を開始

一九七二年■昭和47　秦梨小学校開校100周年記念式典開催。記念誌発行

一九七八年■昭和53　秦梨小学校が健康優良学校愛知県一位となる

一九八〇年■昭和55　秦梨小学校が学校安全文部大臣賞受賞。プール・体育館新設

秦梨学区こどもの家完成

一九九〇年■平成2　平成大橋完成

秦梨小学校校舎増築工事完了

一九九四年■平成6　秦梨小学校が全国小学生ビデオコンテストで優秀賞受賞

二〇〇一年■平成13　秦梨小学校が県学校関係緑化コンクール学校林等活動の部入選、全国ビオトープコンクールで奨励賞受賞

二〇一三年■平成25　秦梨小学校が第2回全国学校・園庭ビオトープコンクールでドイツ大使館賞受賞

二〇一五年■平成27　河合中学校がホタル保護・育成活動で環境大臣賞受賞

二〇一六年■平成28　秦梨小学校が第43回岡崎市教育文化賞受賞

新東名高速道路開通…3

岡崎ゲンジボタル河合保存会50周年記念事業を実施

3 少年自然の家の展望台から望む新東名

2 ガラ紡工場

1 発電所跡

現在の河合中学校

旧河合中学校

現在の秦梨小学校

秦梨尋常高等小学校

秦梨の由来

秦梨学区の由来は、飛鳥時代の603年に秦河勝が聖徳太子より仏像を賜り、高隆寺などの仏閣を建立するために秦梨に居住し、秦氏の呼び名が「秦氏」→「秦梨子」→「秦梨」と変化したと伝えられています。

明治から昭和へ

明治27年には、俳人でもある荒川同楽先生が秦梨に漢方医の診療所を開設。50年余にわたって秦梨、生平の両小学校の校医を務め、当時としては画期的な地域医療に貢献しました。

大正4年には、乙川の流れを活用した乙川電力株式会社の乙川発電所が設置されました。最大出力26・1kw、日暮れから夜明けまで送電し、その範囲は旧河合・形埜・豊富・宮崎の各村でした。

また戦前戦後を通じ、乙川に設置した水車の動力を利用した和紡（ガラ紡）が盛んで、「ガチャマン景気」と呼ばれる好景気の一端を担っていました。現在は岡崎に2軒のみとなったガラ紡工場のうちの1軒（→写真2）が須渕町にあります。

昭和、平成から未来へ

戦後復興の時代までは農林業が盛んでしたが、高度成長期から一家の働き手が近隣の職場へ勤めるようになり、農地も集団化されるようになりました。

乙川には夏になるとホタルが飛び交います。この地域は四季折々の豊かな自然景観を残しています。最近では小中学校の児童・生徒も減少傾向にあり、若い人たちが安心して暮らせる住みやすい地域を目指し、地域の有志で「未来に輝く まちづくりの会」を結成して活動しています。

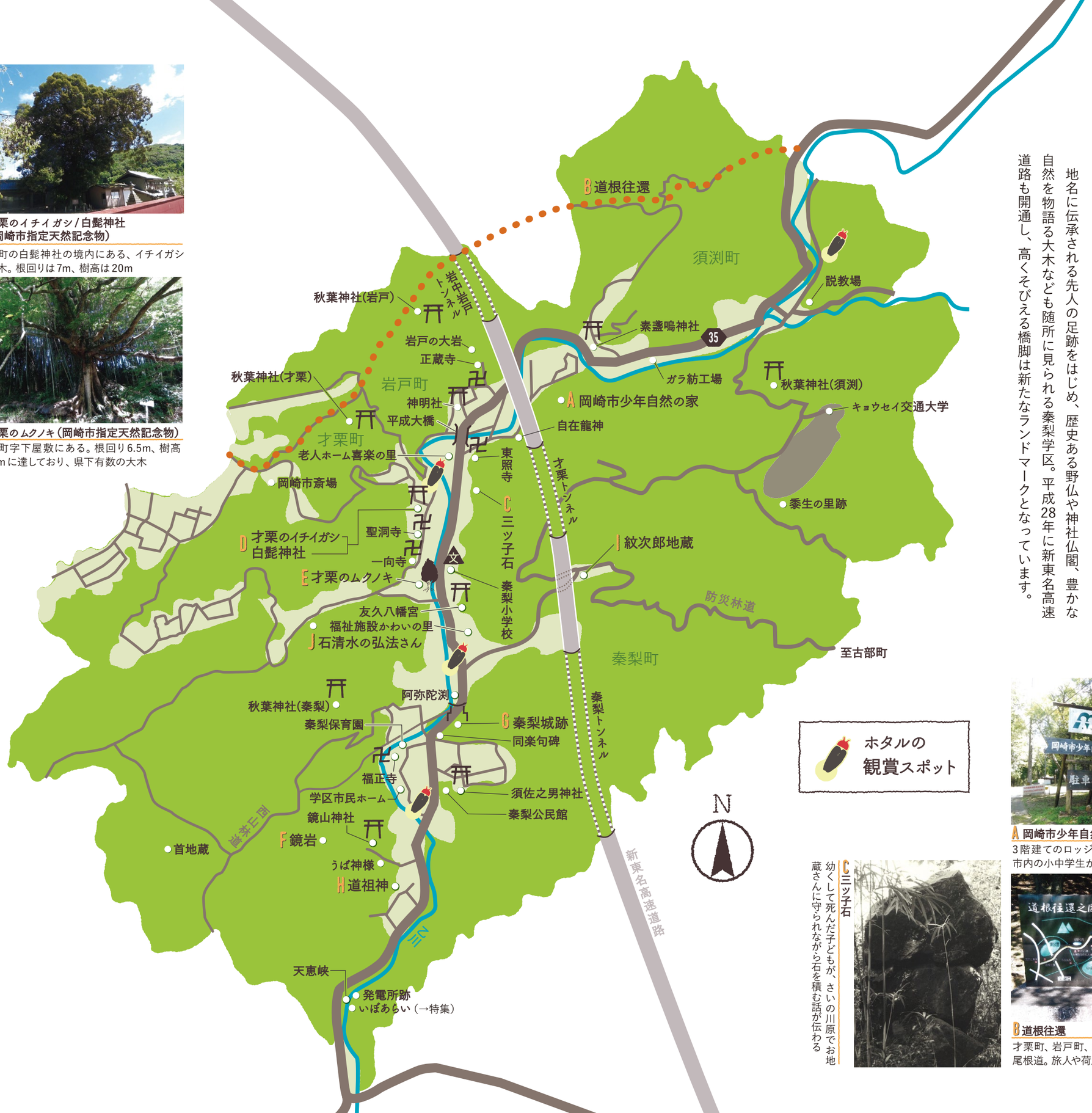
カッパ伝説のある阿弥陀渕。6月にはホタルが飛び交う

DATA

□人　口　1,013人
男性　483人
女性　530人
□世帯数　387世帯
□面　積　10.28㎢
［2016年7月1日現在］

秦梨学区 まちものがたりマップ

地名に伝承される先人の足跡をはじめ、歴史ある野仏や神社仏閣、豊かな自然を物語る大木なども随所に見られる秦梨学区。平成28年に新東名高速道路も開通し、高くそびえる橋脚は新たなランドマークとなっています。



F 鏡岩
秦梨大橋の西側山頂に立つ、高さ3mの大岩。二つに割れた一つが下に倒れている

D 才栗のイチイガシ/白髭神社（岡崎市指定天然記念物）
才栗町の白髭神社の境内にある、イチイガシの大木。根回りは7m、樹高は20m

G 秦梨城跡
山の中の城跡とされる場所に石碑が建てられている。松平氏の城攻めの記録が残る

E 才栗のムクノキ（岡崎市指定天然記念物）
才栗町字下屋敷にある。根回り6.5m、樹高19.5mに達しており、県下有数の大木

H 道祖神
この地には数多くの野仏が存在するが、自然石の道祖神は非常に珍しい

I 紋次郎地蔵
大正時代に養蜂業や道路整備で地域へ貢献した郷土の偉人を、お地蔵さんとして祀っている

J 石清水の弘法さん
弘法さんの祠の中からは清水が湧き出る。名水として知られ、多くの人が水を汲みに訪れる

A 岡崎市少年自然の家
3階建てのロッジとキャンプ場を備え、岡崎市内の小中学生が野外活動で利用する施設

B 道根往還
才栗町、岩戸町、須渕町の山の上を通る昔の尾根道。旅人や荷馬が行き交い、茶店もあった

C 三ツ子石
幼くして死んだ子どもが、さいの川原でお地蔵さんに守られながら石を積む話が伝わる

守り、育て、受け継がれる

秦梨の自然

ホタルの乱舞。乙川の上流より秦梨大橋を望んだ風景

豊かな自然とともにある住みよい環境が自慢

北から南に乙川が貫き、森林や水田の織り成す風景が日々の暮らしを彩る秦梨学区。豊かな里山が残る環境に、子育て世代からは「子どもの感受性が豊かになる」、「のびのびと成長できる」などの感想も聞かれます。また、地域の人たちも「ホタルが舞う乙川の景色が大好き」、「季節を五感で感じられることは贅沢」など、それぞれの**ふるさと**を語ってくれます。

同楽先生が「天恵峡」と名付けた乙川の美しい渓谷

秦梨は中山間地域ではありますが、新東名高速道路の岡崎東インターチェンジまで車で約10分、市内都市部まで車で約15分と便利な環境にあります。光回線を利用したインターネットの普及によっても生活は変化し、時代に対応しながら住みよい環境の充実と、自然との共生を図っています。また地元の小中学校では、自然環境を生かした教育が長年行われており、大人も子どもも協力し合って**秦梨の自然**を受け継いでいます。

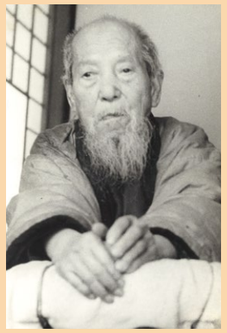
桜咲く学区市民ホーム前の公園で遊ぶ親子連れ

COLUMN

学区民なら知っている 秦梨の常識

医療と文化を先導した地域の偉人 荒川同楽

地域医療に貢献し、秦梨では誰もが知っている有名人。50年以上も校医を務めた同楽先生は、正岡子規に師事した高名な俳人でもありました。その影響で俳句をたしなむ人が増え、盛んに俳句会が開かれました。「稲香吟社（とうこうぎんしゃ）」という会ができ、今も毎月、俳句会が開かれています。小学校校庭には「もの言わで　うなづく癖や　入学児」という同楽先生の句碑があります。



自宅でくつろぐ荒川同楽先生

秦梨のことが全てわかる 秦梨ふるさとカルタ

昭和53年頃、小学校の「ふるさと学習」の一環として児童と教職員の手で作られたカルタ。学区全域にわたって、自然、史跡、昔話、出来事、伝説、偉人について網羅されています。子どもの話し言葉で書かれた句と、当時の児童が描いた絵札は親しみやすく、小学校では新春の恒例行事としてカルタ大会を行っています。

新春のカルタ大会の様子

見ているだけで楽しい絵札

枯れることのない不思議な水の伝説 いぼあらい

天恵峡の巨岩に溜まり、日照り続きでも枯れたことがないという不思議な水。地域のお年寄りが「本当に取れるんだよ」と感嘆して話すほど、この水をいぼをこすりつけるとよく取れるといわれています。水につけた後、川原のいぼ神さまが見えなくなるまで後ろを振り向かずに帰らないと効能がなくなる、と言い伝えられていました。

紅葉も美しい天恵峡に、ひっそりとある伝説の水

ホタルが舞う環境を守り、自然を大切にする心を育てる

小中学校の活動報告

秦梨小学校 里山環境教育

学校林「にこにこ山」を生かした里山再生活動、「ふるさとトープ」を核にした学校ビオトープ作り、学校田でのもち米作りなど、地域の環境やそこに暮らす人々の営みから学ぶ取り組みをしています。

活動は主に、下草刈りや間伐、灌木（かんぼく）や竹の伐採などを行う「里山レスキュー活動」、枝打ちやシイタケのほだ木の切り出しや菌打ち、竹ぼうき作りなどの「山仕事の会」、「にこにこ山」の樹木を利用した冬の炭焼きなど。4年生は、乙川や「ふるさとトープ」の環境調査をします。5年生は学校田でもち米作りをします。子どもたちは、生活科や総合的な学習の時間を中心に、他教科との関連も図りながら、自然と人との関りについて学んでいます。山仕事は山の先生、田の仕事は田の先生が子どもたちへ伝え、地区老人会の方も知恵や技を教えています。

里山レスキュー活動

田植え

水質検査

河合中学校 ゲンジボタル保護・育成活動

四季折々に美しい姿を楽しむことのできる清流、乙川。6月には、ゲンジボタルやヘイケボタルが舞います。しかし、さまざまな要因による環境の変化で、ホタルがほとんど見られない時代がありました。

昭和41年、河合中学校が「ゲンジボタル保護・育成活動」を始め、エサとなるカワニナの飼育など、繁殖・養殖の方法を確立。それ以降、毎年、養殖したゲンジボタルの幼虫を乙川流域に放流してきました。50年にわたり続けてきた活動の成果が、右ページの写真の風景なのです。

この活動を、「岡崎ゲンジボタル河合保存会」をはじめ、学区が支えています。平成27年には、ホタル保護・育成活動の功績が認められ、「環境大臣賞」の栄誉を受けました。

ホタルの幼虫を世話する自然科学部員